

コメント

1 インフルエンザ

定点当たり59.39人と増加が続いています。この報告数は、1999年の感染症法施行以降で最多となります。また、12月26日に県内全域にインフルエンザ警報が発令されました。咳エチケット、換気などの感染予防対策を徹底しましょう。

迅速診断キット検査結果(市内2か所の協力医療機関による)  
第52週 A型:483人、B型:0人

2 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)

定点当たり3.47人の報告があり、前週の約1.9倍に増加しました。手洗いの励行、咳エチケット、換気などの感染予防対策に取り組みましょう。

3 感染性胃腸炎

定点当たり6.48人と増加傾向です。手洗いの徹底、便・吐物の適切な処理など、感染予防対策に努めましょう。

4 マイコプラズマ肺炎

定点当たり5.67人と多い状況が続いています。手洗いの励行、咳エチケットなどの感染予防対策に取り組みましょう。

定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号
インフル	インフルエンザ	2138	59.39	8.21	急増	小児科	ヘルパンギーナ	-	-	0.24	
	新型コロナ(COVID-19)	125	3.47		急増		流行性耳下腺炎	1	0.04	0.02	
小児科	RSウイルス感染症	4	0.17	0.12		眼科	急性出血性結膜炎	-	-	-	
	咽頭結膜熱	8	0.35	1.15			流行性角結膜炎	5	0.63	0.63	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	32	1.39	1.40		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	感染性胃腸炎	149	6.48	5.53			無菌性髄膜炎	-	-	-	
	水痘	7	0.30	0.19	急減		マイコプラズマ肺炎	34	5.67	0.03	急増
	手足口病	1	0.04	0.62			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	伝染性紅斑	4	0.17	0.17			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	
	突発性発しん	4	0.17	0.19							

急増減 ↑ ↓ 前週と比較しておおむね 1:2以上の増減

増減 ↗ ↘ 前週と比較しておおむね 1:1.5～2の増減

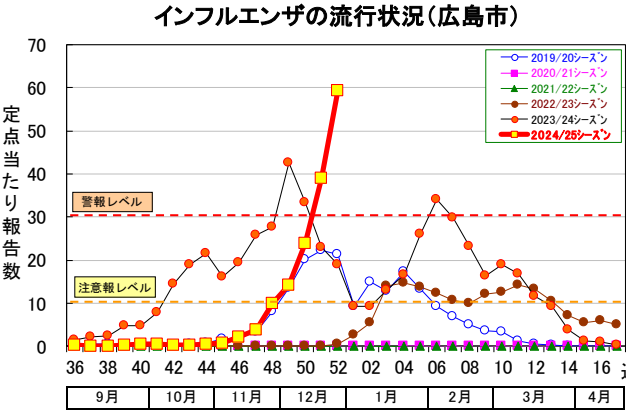
微増減 ↗ ↘ 前週と比較しておおむね 1:1.1～1.5の増減

横ばい ⇐ ⇓ ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ/COVID-19定点数(小児科定点を含む)	36
小児科定点数	23
眼科定点数	8
基幹定点数	6

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)



全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	5	108	20歳代・推定感染地域: 国外・1人、70歳代・2人、80歳代・2人
4	つつが虫病	1	4	50歳代
5	急性脳炎	1	12	10歳未満
5	侵襲性肺炎球菌感染症	3	17	10歳未満、10歳代、60歳代
5	梅毒	1	161	30歳代
5	百日咳	1	43	30歳代

■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

			インフル エンザ	(C O V I D - 1 9 ) 新 型 コ ロ ナ 感 染 症	R S ウ ィ ル ス 感 染 症	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 血 性 レ ン サ 球 菌 咽 頭 炎	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	ヘル パン ギー ナ	流 行 性 耳 下 腺 炎	急 性 出 血 性 結 膜 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	細 菌 性 髄 膜 炎	無 菌 性 髄 膜 炎	マイ コ プ ラ ズ マ 肺 炎	クラ ミ ジ ア 肺 炎	(ロ タ ウ ィ ル ス ) 感 染 性 胃 腸 炎
報告 数	広島市	第48週	356	47	9	6	41	102	5	10	2	5	4	-	-	7	-	-	29	-	-
		第49週	515	61	5	7	42	95	8	14	1	4	-	1	1	8	-	-	36	-	-
		第50週	864	61	11	6	42	111	3	8	2	7	2	1	1	5	-	-	31	-	-
		第51週	1,408	66	5	11	44	128	21	2	2	4	-	1	-	9	-	-	31	-	-
		第52週	2,138	125	4	8	32	149	7	1	4	4	-	1	-	5	-	-	34	-	-
定 点 当 た り	広島市	第48週	9.89	1.31	0.39	0.26	1.78	4.43	0.22	0.43	0.09	0.22	0.17	-	-	0.88	-	-	4.83	-	-
		第49週	14.31	1.69	0.22	0.30	1.83	4.13	0.35	0.61	0.04	0.17	-	0.04	0.13	1.00	-	-	6.00	-	-
		第50週	24.00	1.69	0.48	0.26	1.83	4.83	0.13	0.35	0.09	0.30	0.09	0.04	0.13	0.63	-	-	5.17	-	-
		第51週	39.11	1.83	0.22	0.48	1.91	5.57	0.91	0.09	0.09	0.17	-	0.04	-	1.13	-	-	5.17	-	-
		第52週	59.39	3.47	0.17	0.35	1.39	6.48	0.30	0.04	0.17	0.17	-	0.04	-	0.63	-	-	5.67	-	-
全国		第50週	19.07	3.89	0.33	0.41	2.61	4.89	0.31	1.32	0.94	0.24	0.03	0.04	0.05	0.81	0.02	0.03	1.81	-	0.02
		第51週	42.66	5.48	0.37	0.44	2.61	5.19	0.33	0.89	0.98	0.23	0.02	0.04	0.06	0.84	0.03	0.02	1.52	0.01	0.02

■ 新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	発症年月日	検査材料	検出病原体
インフルエンザ	発熱(39.8℃) 鼻炎	1	2024/10/29	鼻汁(拭い液)	ヒコロナウイルスHKU1
インフルエンザ	発熱(38.2℃)	7	2024/11/25	鼻汁(拭い液)	インフルエンザウイルスA(H1N1)2009型
その他の呼吸器疾患	発熱(37.9℃) 喘息発作 鼻炎	4	2024/10/21	鼻汁(拭い液)	コクサッキーウイルスA2型
その他の疾患	発熱(39.0℃) 熱性痙攣 呼吸不全	1	2024/11/12	咽頭拭い液	ライノウイルス

\* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

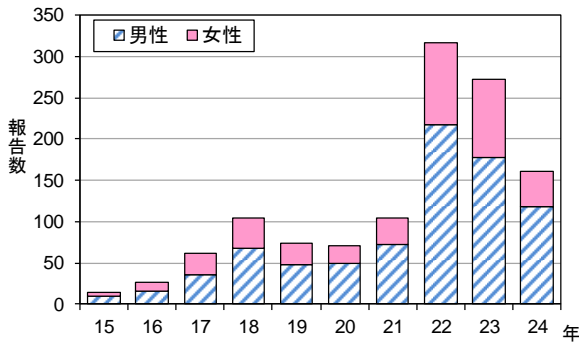
【参考】広島市における梅毒の発生動向について

2024年の累計報告数は161件(男性118件、女性43件)(速報値)と、1999年の感染症法施行以降の調査において、2022年(317件)、2023年(272件)に次いで3番目に多い状況です。また、年代別では、男性は20歳代から50歳代の幅広い年代に多く、女性は20歳代が多くなっています。

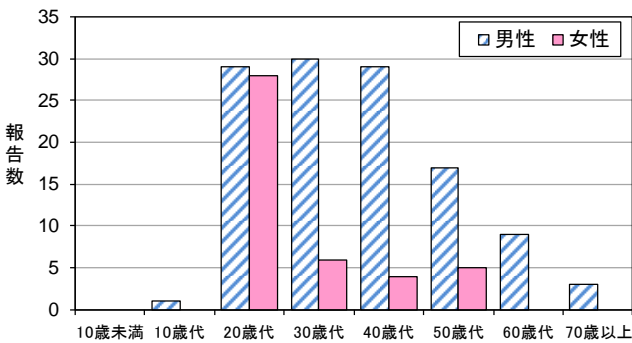
梅毒は、主に性的接触により、口や性器などの粘膜や皮膚から感染します。早期の治療で完治しますが、治療をしないまま放置すると、心臓や血管、脳などの臓器に病変が生じ、時には死に至ることもあります。

また、妊娠している人が感染すると、死産や早産になったり、生まれてくるこどもの神経や骨などに異常をきたす先天梅毒になることがありますので、感染予防と早期発見・早期治療が大切です。

梅毒の年間報告数の推移(広島市)



梅毒の年齢階層別報告数(広島市)



梅毒の無料・匿名検査

広島市の各区保健センターでは、梅毒の無料・匿名検査を実施しています。  
原則としてHIV(エイズ)検査と同時受検となります。詳しくはホームページをご覧ください。  
<https://www.city.hiroshima.lg.jp/soshiki/72/2986.html>



本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページをご覧ください。  
<https://www.city.hiroshima.lg.jp/site/infectious-disease/>



【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号  
TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail [ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp](mailto:ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp)